

政策の評価票

政策 ひとりひとりが個人として厚く尊重される

方向 日々のくらしのなかに人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」を築いていくことにより、子どもも高齢者も、女性も男性も、障害のあるひともないひとも、また国籍や民族、生まれや生い立ちに関係なく、すべてのひとがいきいきとくらするまちをめざす。

評価 C 人権問題の現状を示す客観指標の動向は、全体的にやや良い傾向にある。市民生活実感については全体としてどちらとも言えない。人権問題については市民の意識が大切な要素であり、多くの施策に対する市民生活実感評価を重視し、この政策の目的はそこそこ達成されていると評価する。

この政策を実現するための施策とその総合評価

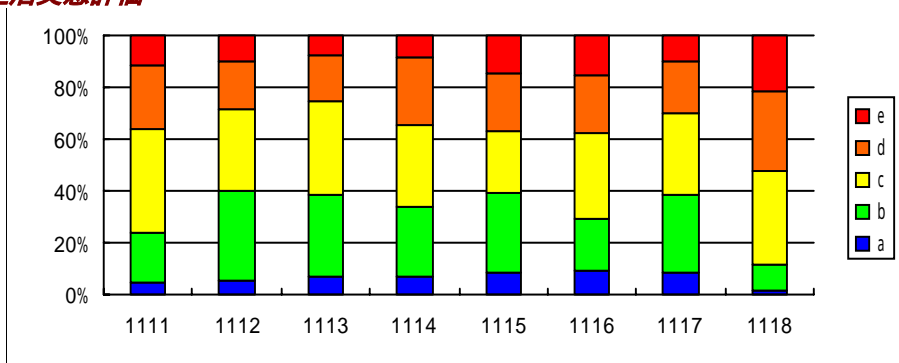
施策名	日々のくらしのなかに人権を大切にし、尊重し合う習慣が根付いた「人権文化」の構築	評価:
1111	人権尊重の考え方が日常生活に根付いた社会の構築をめざす。	C
概要		
施策名	男女がともに自立、参画、創造する男女共同参画社会の実現	評価:
1112	男女が、等しく個人として尊重され、性別によらない多様な生き方が保障されるとともに、あらゆる場において、ともに責任を担いつつ個性と能力を発揮することができる社会を実現する。	C
概要		
施策名	子どもの人権の尊重	評価:
1113	児童虐待やいじめの防止等により子どもの権利を擁護し、子どもの人権を尊重する社会を構築するとともに、子どもたちの社会性や自主性、公共心を培う。	C
概要		
施策名	高齢者の人権の尊重	評価:
1114	高齢者のプライバシーの侵害や虐待を防止し、高齢者の人権を尊重するとともに、高齢者が自立して社会参加できる場や機会に恵まれた社会をめざす。	B
概要		
施策名	障害のあるひとの人権の尊重	評価:
1115	障害者に対する物理的、制度的、心理的障害を取り除き、障害のあるひともないひとも同じ生活を送ることができる社会を構築する。	C
概要		
施策名	特別施策としての同和対策事業の終結とその後の取組	評価:
1116	特別施策としての同和対策事業を終結するとともに、残る諸課題については一般施策により取組を進め、様々な人が交流、共生する地域社会作りを進める。	C
概要		
施策名	多文化共生社会の実現	評価:
1117	国籍、民族、文化等の違いによる精神的、制度的な壁を解消し、すべての市民が共に生きる多文化共生社会の実現を目指す。	B
概要		
施策名	現代社会における多様な人権問題への対応	評価:
1118	多様な人権問題に関して正しい理解と認識を深め、市民ひとりひとりが身近な問題として考え対処する力を身につけ、現代社会における様々な人権問題に対応する。	D
概要		

主な客観指標の現在値と評価(アウトカム指標での評価)

1111 (準)企業向け人権研修参加者数(人)	381 c
1111 各種人権啓発事業への参加者数(人)	6596 e
1112 (準)女性総合センター(ウイングス京都)来館者数(人)	363933 d
1112 (準)審議会等における女性委員の登用率(%)	26.8 d
1113 子育て支援シンポジウムの参加人数(人)	400 c

1113 虐待相談に対して速やかに対応(48時間以内)した件数の割合(%)	96c
1114 介護サービス評価事業利用者評価結果(2点満点)	1.415a
1114 長寿すこやかセンターにおける権利擁護相談件数(件)	71b
1115 障害者社会参加促進事業参加者数(人)	12943c
1116 コミュニティセンター貸館による使用件数(件)	6715a
1117 京都地域留学生住宅保証制度利用者数(名)	163a
1117 審議会等への外国籍市民委員の参加数(人)	13b

市民生活実感評価



- 1111 京都は普段の生活の中で「人権」を大切にし、尊重し合う習慣が根付いている。 c
- 1112 男女が個人として尊重され、共に個性や能力を發揮できる社会になってきている。 c
- 1113 一人一人の子どもの人格が大切にされ、子どもの権利が守られている社会である。 c
- 1114 高齢者の知識や経験が尊重され、権利が守られている社会である。 c
- 1115 障害のある人が、様々な面で暮らしやすいまちになってきている。 c
- 1116 生まれや生い立ちに関係なく、すべての人がいきいきと暮らせる社会になってきている。 c
- 1117 国籍、民族、文化等が違ってもお互いに理解し合い、共生する社会になってきている。 c
- 1118 HIV感染者やハンセン病患者、刑を終えて出所した人、ホームレスなど、現代社会の様々な人権問題について、市民の正しい理解と認識は高まっている。 d